NIE実践報告

1．タイトル：新聞等を使って調査活動をし、裁判員制度を理解しよう

2．学校名

長野県小諸市立芦原中学校

3．実践者名（代表者名）

須江猛（社会科教科会）

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会（公民的分野）　38人

6．単元（本時の学習課題）名

司法制度改革　~　裁判員制度を中心に~

7．目標(狙い)

身近で具体的な新聞記事・法令・判例などを活用しながら、現代社会の政治に関心を持たせ、現代社会の政治の動きを多面的・多角的にとらえ、裁判員制度を深く理解し、将来の主権者としての自分を自覚し、進んで政治に関わっていこうとする態度を育てる。

8．評価の視点

模擬裁判をしたことや、新聞等の資料を使って調査活動・説得活動をしたことにより、裁判員制度に対する理解を深めることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「現代の民主政治と社会」19時間
うち、「国の政治の仕組み」11時間、「司法制度改革」8時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①日本の司法制度改革の問題点を考え、知る。裁判員制度について考える。（1時間）
②裁判員制度について調べて分かったことを発表し合う。（1時間）
③模擬裁判を通して、裁判員制度はどのようなものか考える。（1時間）
④模擬裁判をして感じたことを発表し合う。また、「裁判員制度への参加意識と課題」を見て感じたことを発表し合う。（1時間）
⑤裁判員をすることに消極的な人を説得するために、新聞等を使って調査活動をする（3時間）
使用した新聞・・・朝日新聞、信濃毎日新聞、毎日新聞、読売新聞、その他
⑥裁判員をすることに消極的な人を説得する。（義務でも参加したくない人が多い割合でいるが、そのような人にも裁判員をさせたほうがよいか考える。）（1時間）

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・参加したくないのはなぜか、理由を聞きたい。仕事にも差し支えないし、人を裁きたくないのは皆同じです。　・人を裁くのは誰だっていや。多くの常識的な一般市民の目で事件を見ることが、最も真実に近づけると思う。【新聞資料の表現は難しいが、自分の理解の度合いに合わせて様々な立場について読みとり、意見に触れられているように感じられた。】

12．成果と課題

説得活動に関わり様々な立場（内容）の新聞記事に触れたことにより、司法制度改革について本人たちなりに深くまた価値観を広げて理解でき、政治に関わっていこうとする態度の育成につながったと考えられる。新聞記事の表現を生かして発表する姿が見られた。全員の生徒が学習したことを400字程度に考えをまとめて表現し、新聞の投書欄に投稿することができた。今後、投書欄に掲載される喜びを感じさせたい。また、本単元以前にも新聞記事を使った学習をしたが、いきなり新聞記事をしようさせようとしても無理が生じるので、必要な新聞記事をタイミングよう提示し学習させていく単元展開の工夫が今後更に必要になると考える。